栃木医療センター 広報誌 No. 63

理　念

信頼　貢献　協働



キンモクセイ

Contents

●2026年度　着任あいさつ …… 1・2
●2026年度　NHO栃木医療センター
　地域医療連携講演会・意見交換会 …… 3
●新たにFFRctを導入しました …… 4
●市民公開講座の開催について …… 5
●連携医紹介（ふじの花おなかと内科クリニック）…… 6
●マイナ保険証による受付について／交通のご案内 … 裏表紙

独立行政法人国立病院機構　栃木医療センター

2026年度　着任あいさつ

今年度も栃木医療センターに多くの新たな職員が加わりました。それらを代表して、2026年４月１日付で他施設より異動され、各部門の長に就任した５名について、着任の挨拶を掲載いたします。

薬剤部長
瀬川　　誠

長野県の小諸高原病院から着任しました瀬川です。栃木県内の勤務は初めてです。栃木医療センターでは、多くの患者さんが診療に訪れていることが印象的でした。また、院内の地域包括ケアシステムを扱う会議に参加していますが、やり取りを通して信頼感を高めたうえで、地域医療との連携が行われていることを強く実感しました。

栃木医療センターでは、「信頼・貢献・協働」を理念として医療提供が運用されています。多くの職員が患者さんとの信頼関係を築き、社会貢献や地域貢献ができるように、多職種同士のチーム連携をもって職務に励んでいます。今後も、安心して治療が受けられるように取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



看護部長
二瓶　吾紀子

この度、看護部長に着任しました二瓶です。私は、長野県と大阪府での勤務を経て13年ぶりに栃木医療センターに帰任しました。以前は看護師長でしたが、看護部長として再びこの地で勤務できることを大変うれしく感じています。

看護部は、「人に寄り添い想いに共感できる」を理念としています。患者さん、ご家族、地域の皆さま、そして一緒に働く職員一人ひとりの想いを大切にした看護の実践に努めています。

県立病院との再編統合計画が進む現在、地域医療を取り巻く環境は大きな変化の時期を迎えています。このような時代だからこそ、地域の医療機関や関係機関等とさらに連携を深め、地域住民の皆さまが安心して医療や看護が受けられる体制を構築する必要があると考えます。その原動力となる「人に寄り添い想いに共感できる」看護部を、皆さまのご意見を取り入れながら、職員一人ひとりの力を結集し、全力でつくっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



診療放射線技師長
藤岡　　等

千葉医療センターより異動し、診療放射線技師長として着任いたしました藤岡です。これまで複数の国立病院機構施設等で勤務し、画像診断、放射線治療、放射線安全管理や人材育成に携わってまいりました。

栃木医療センターは、地域の二次救急を担うとともに、地域の医療機関との連携を大切にしています。放射線科でも、CT・MRI・骨塩定量検査などの大型機器共同利用を通じて、地域の診療を支える役割を担っています。

連携医療機関の皆さまには、必要な検査を安心してご依頼いただけるよう、迅速で質の高い検査と円滑な連携に努めます。そして地域の皆さまには、分かりやすい説明を心がけ、安全・安心な検査・治療を提供してまいります。職員同士が互いに支え合える職場づくりにも努め、地域から信頼される放射線科を目指して尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。



理学療法士長
野崎　亮太

この度、栃木医療センターの理学療法士長に着任いたしました野崎です。昨年度までは岡本にあります宇都宮病院に勤務し、急性期から回復期・維持期まで、地域の患者様の生活に寄り添ったリハビリテーションに携わってまいりました。

これまでの経験を活かし、当院においても患者様お一人おひとりの「自分らしい生活」への復帰を見据え、安全で質の高いリハビリテーション医療の提供に努めてまいります。また、患者様やご家族はもちろんのこと、地域の医療・介護関係者の皆様からも厚く信頼されるよう、そして地域医療の発展に貢献できるよう誠心誠意尽力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



栄養管理室長
澤田　周矢

千葉県の千葉医療センターから昇任で参りました澤田と申します。出身は新潟県で、新潟県、群馬県、長野県、千葉県の施設を経験してきました。栃木県では初めての勤務、初めての栄養管理室長ということで、身の引き締まる思いでおります。

栃木医療センターは二次救急施設として救急車を積極的に受け入れ、地域の皆様を支える役割を担っています。栄養管理室も患者さんの治療や回復を支え、元気な生活を取り戻していただくために、より一層多職種での連携を深め、患者さん一人ひとりに寄り添った質の高い栄養管理を実践するとともに、安全で安心できる食事の提供に努めてまいります。

また、栄養管理室の職員が互いに支え合い、それぞれの専門性を発揮できる職場づくりにも取り組んでいきたいと考えております。まだまだ至らぬ点もございますが、今後ともご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2026年度　NHO栃木医療センター
地域医療連携講演会・意見交換会

地域医療連携係長　佐藤　博子



7月16日（木）、ホテル東日本宇都宮において、NHO栃木医療センター 地域医療連携講演会・意見交換会を開催いたしました。当日は、連携医療機関の先生方をはじめ、訪問看護ステーションなど、日頃より地域医療を支えてくださっている多くの皆さまにご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。心より感謝申し上げます。

今回の講演では、当院外来診療部長・救急部長で循環器内科の足立医師より、「地域で進化する循環器診療 ～リードレスペースメーカー導入と冠動脈虚血評価の実際～」をテーマに講演を行いました。現在、当院で実施している循環器領域の診療や治療について、リードレスペースメーカーによる治療を中心に、実際の治療動画なども交えながら、具体的で分かりやすい内容で紹介しました。

参加された皆さまからは、「最新の循環器治療について学ぶことができて良かった」「治療内容を知ることができ、今後さらに患者さんを紹介しやすくなった」など、貴重なご意見をいただきました。今回の講演が地域の先生方と当院との連携をより深め、患者さんに適切な医療をスムーズにつなげていくための一助となれば幸いです。

当院では、今後も地域の医療機関の皆さまと顔の見える関係を築き、より円滑な病診連携・病病連携を推進していくため、連携医セミナーを定期的に開催していく予定です。また、地域医療機関への訪問活動を通して、先生方や医療スタッフの皆さまから直接ご意見・ご要望を伺い、地域医療支援病院として求められる役割をしっかりと果たしてまいります。これからも地域の皆さまに信頼される医療機関を目指し、地域医療のさらなる充実に向けて努めてまいりますので、今後ともNHO栃木医療センターをどうぞよろしくお願い申し上げます。

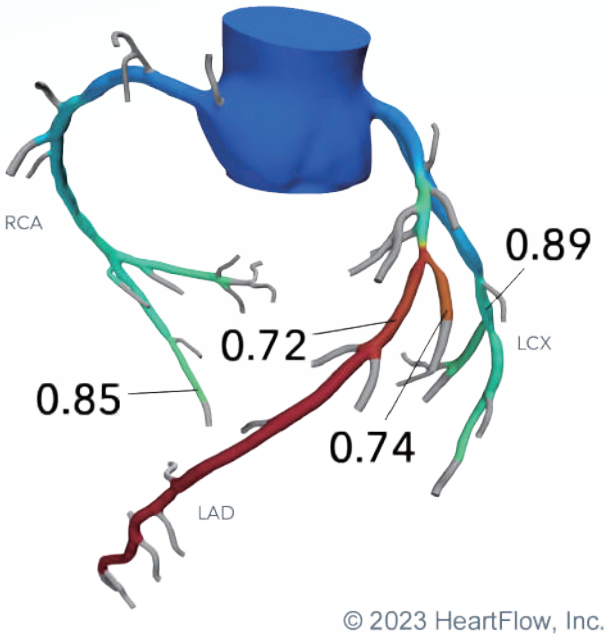


新たにFFRct（エフエフアールシーティー）を導入しました

外来診療部長・救急部長　足立　太一

当院の循環器内科では、2026年7月より、心臓の血管の病気（冠動脈疾患）に対する新しい検査法である「FFRct（冠血流予備量比CT）」を導入しました。

狭心症に代表される冠動脈疾患が疑われる患者さんでは、冠動脈CTを用いて、心臓を栄養する冠動脈に狭窄（狭くなっている状態）がないかを調べることができます。しかし、CTで冠動脈の狭窄が見つかっても、その狭窄が実際に心筋への血流を低下させ、治療が必要な「虚血」を引き起こしているかどうかは、画像を見るだけでは判断が難しい場合があります。



検査結果例
血流の低下が数値と色で表示されます。

FFRctは、通常の冠動脈CT画像をもとにコンピューター解析を行い、冠動脈の血流をシミュレーションする検査です。これにより、冠動脈の「形」だけでなく、狭窄によって血流がどの程度低下しているかという「機能」も評価することができます。新たにカテーテルを挿入する必要がなく、冠動脈CTのデータを利用して解析できることが大きな特徴です。

例えば、CTで中等度の狭窄が認められた場合でも、FFRctで心筋への血流が保たれていることが確認できれば、心臓カテーテル検査を行わずに保存的治療を決定することが可能になります。一方で、血流低下が示された場合には、心臓カテーテル検査や治療を検討するための重要な情報となります。

当院では、従来から心臓カテーテル検査におけるFFR/DFR/QFRなどの冠動脈機能評価を積極的に行ってきました。今回FFRctを導入したことで、より低侵襲な段階から冠動脈の機能評価が可能となりました。今後も、患者さん一人ひとりに必要な検査・治療を適切に選択し、身体への負担をできるだけ抑えた循環器診療を目指してまいります。

市民公開講座の開催について

地域医療連携室長・小児科医長　石井　とも



9月20日（日）、とちぎ福祉プラザにおいて市民公開講座「アレルギー疾患について学ぼう！体験しよう！」を開催しました。前回の開催は新型コロナウイルス感染症の流行前である2019年11月だったため、７年ぶりの開催となりました。台風が接近する中、またシルバーウィークの２日目にもかかわらず、子どもから大人まで多くの方にご参加いただきました。

今回は小児科が担当し、「アレルギー疾患」をテーマに実施しました。前半は、アレルギーの基本から、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎の病態や治療について、小児科医の山口、石井、福田が講演しました。皆さん最後まで熱心に耳を傾けてくださいました。

後半は医師、看護師、薬剤師、栄養士によるワークショップを行いました。アトピー性皮膚炎のブースでは、体の洗い方や塗り薬の上手な塗り方を体験し、石鹸をしっかり泡立てて洗う方法が学べました。気管支喘息のブースでは、太いストローと細いストローを口にくわえて呼吸することで、喘息発作が起きているときの息苦しさを体験し、治療に必要な吸入薬を上手に使用する方法が学べました。食物アレルギーのブースでは、加工食品のアレルギー表示の見方について確認できました。アナフィラキシーのブースでは、アドレナリン製剤を使用すべき症状や、その投与方法を体験できました。アレルギー性鼻炎のブースでは、アレルギー疾患の根本的療法となる可能性がある舌下免疫療法について学べました。参加者からは、ご自身や家族のアレルギー症状について、またお子さんのアレルギーへの対策について多くのご質問もいただきました。

自分がアレルギー疾患を持っていなくても、家族や友だちがアレルギーを抱えている場合は少なくありません。今回の講座が、アレルギー疾患への理解を深める機会となりましたら幸いです。ご参加いただいた市民の皆様、誠にありがとうございました。







ふじの花おなかと内科クリニック

院長　　内藤　裕史



2026年４月１日、宇都宮市岩曽町に開業しました「ふじの花おなかと内科クリニック」の内藤裕史です。

私自身は千葉県の出身ではありますが、自治医科大学を卒業し、栃木県出身の副院長で妻の内藤恵理先生とともに、千葉・栃木両県でのへき地診療に内科医として従事してきました。母校の義務年限修了後には、栃木県立がんセンターで内視鏡診療や化学療法（抗がん剤）、病理学の研修を受けました。2019年からは、消化器内科医としてNHO栃木医療センターで勤務させていただきました。栃木医療センターでは、消化器急性期疾患や内視鏡治療を主としたがん診療に携わりながら、消化器内科の先生方から多くのことを指導いただきました。それ以外にも、総合内科をはじめ色々な科の先生方から多くの学びを得て、大変成長させていただきました。その中で、これまでに経験したへき地での患者さんとの関わり合いや、これからの病気を防いで早期に解決する予防医療の重要性を再認識する場面が増えていました。地域のみなさんの身近な存在として健康づくりに少しでも関われればという思いで、縁あって岩曽町に開院させていただく運びとなりました。

当院では、胃カメラ、大腸カメラ、腹部超音波などの専門的な消化器検査はもちろんのこと、宇都宮市健診や肺がん検診などにも対応しています。高血圧や高脂血症、糖尿病などの生活習慣に関する内科診療に関してもご相談いただければと思っています。急な具合の悪さやCTなどの高度の検査が必要な患者さんがいた場合には、栃木医療センターとうまく医療連携を取り、円滑に質の良い診療が行えるように心がけていきます。

当院の理念である、ふじの花の花言葉のように「忠実」な姿勢で「決して離れない」院内スタッフとみなさんがつながりをもって、「優しさ」の籠もった医療がみなさんに提供出来るよう日々精進して参ります。何卒宜しくお願い致します。

ご案内　https://fujinohana-onk.com

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9：00 ～ 12：00	●	●	●	●	●	●	×
14：00 ～ 18：00	●	●	●	●	●	×	×

※休診日：日曜日・祝日
※土曜日は13:00まで。



〒321-0973　栃木県宇都宮市岩曽町32-21　　TEL 028-616-3078

マイナ保険証による受付について

2025年12月2日より、従来の健康保険証は原則として使用できなくなったため、健康保険証を利用登録したマイナンバーカード（以下「マイナ保険証」）を使用していただく必要があります。当院では、玄関ホールに専用端末を設置しています。マイナ保険証を利用すると次のようなメリットがありますので、「来院の都度、受診の前に」受付をお願い致します。

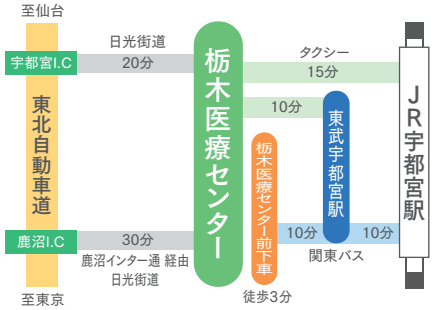
・過去に処方されたお薬の情報や特定検診の結果を、ご本人の同意があれば医師や薬剤師などが共有でき、正確なデータに基づく医療が受けられます。

・限度額認定証を提示しなくても、窓口で高額療養費制度の限度額を超えた額の一時的な支払が不要になります。



また、事前に登録をすると、スマートフォンをマイナ保険証として利用できます。当院は、スマートフォンのマイナ保険証受付にも対応しております。

交通のご案内





発行人

独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター
院長　石原　雅行

〒320-8580
栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37
TEL. 028-622-5241
FAX. 028-625-2718
URL. https://tochigi.hosp.go.jp/

◎本冊子はユニバーサルデザインフォントを使用しています。
※ユニバーサルデザインフォント…年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、さまざまな人が読みやすく、誤読されにくい書体です。